

ナツとソラ



この作品はフィクションです

作中の表現は想像、誇張であるため
現実の社会通念と切り分けてお読みください

夏休みに婆ちゃんが住む
田舎の山奥でボロい
神社をみつけた

ずっと人が来てない
みたいだったので
僕は最高の遊び場を
見つけたと思った



そしたら何もない
社の奥から
突然女の子が現れ

君が大人に
なるまでの間
私が友達になって
あげる



ここでいう
大人になるとは

とある言葉を示す
意味だと知るのは
もう少し大きく
なってからのも
事だった

オバケ!!





ナツとソラ

「僕が精通するまでの友達」



数年後

久しぶり〜

ソラ君も今年で
中学生かーようやく
背も同じくらい
になったね

そういうナツは
何年たつても
見た目が
変わらないね

ふふまあ
妖怪みたいない
もんだし

女の子は
ナツと言った

昔ここで遊んでた
子供たちの「気」に
あてられて神社から
生まれたらしい

もう何年もずっと
人が来なくて力が
無くなりかけて
ただだけ

ソラ君が
来てくれて
目が覚め
ちゃったみたい

昔はここで
遊ぶ子はたくさん
いたんだけどね〜

まあこの辺
子供自体が
少ないしみんな
家でゲームするし

輪に入れない子って
どこにでもいるから
そういう子と遊んで
あげるの

うるさいな…
と思ったけど
ほんとはちょっと
嬉しかった



川遊びはいつも
あの格好なんだけど
ちよつとやめて
ほしいな



あ…
むく…



平常心
平常心



前にはあちゃんと
なんとなく神社の
話題になった時の事

あそこで遊んだら
いけんよボロくて
危ないから

う…うん
わかってる…

それにしても懐かしいねえ
仲良くしてくれた女の子が
おったんやけど急におらん
ようになってな

優しい子
やったけん
寂しかったわ

ナツの事かな？

…確かお赤飯
炊いてもらった
次の日やったかね



おせきはん？

もう古い習慣やし
ソラは男の子やけん
なあ…まあその内
わかるじやろ

パンめいのりき

おせきはん…

祝い事
魔除け
早く

ふぁーず
ピーー

ええつと男の場合は
精通っていうのが
あるんだ

いやでも待てよ
ばあちゃんか
この時ナツに
会えなくなっ
たて事は…





げんぐとか
そんな昔の
話じゃ
ないよー

って言われ
てしまった



ナツもホントの原因は
知らないらしいけど
僕くらいの歳から
会えなくなる子が
出てきたっていうし…



いや大丈夫
どうやったら
精子が出るのか
知ってるし

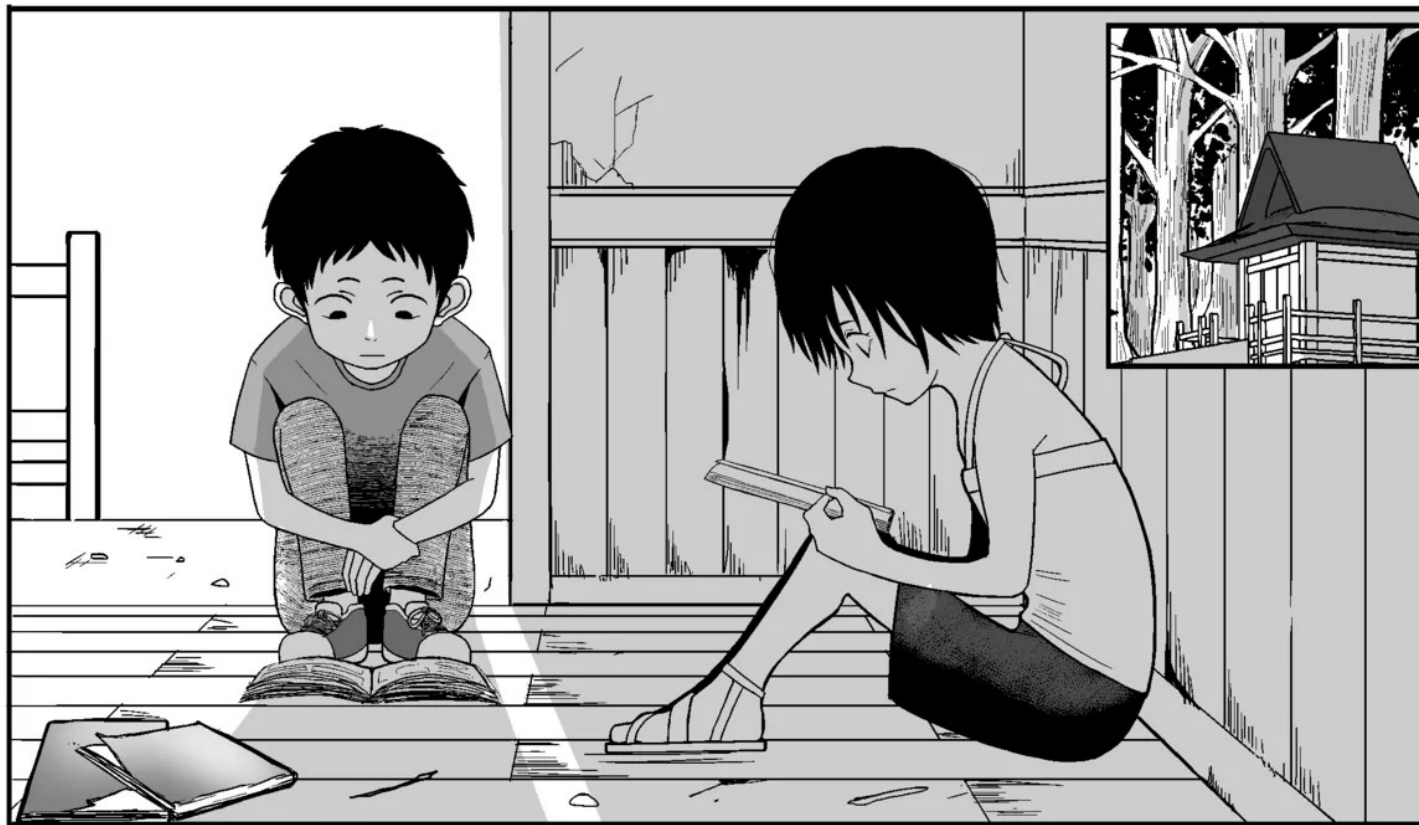
だったら僕が
何もしなければ
良いだけの話



精子でしたら
お別れって事？







そこには
未知の世界が
描かれてあった

気付いたらページを
めくる手が
止まらなかった

場所や人の
年齢も様々で
僕くらいの女の子が
セックスしてる
ものもあった

男と女が
絡み合って
舐めたり触ったり
大人数でやったり

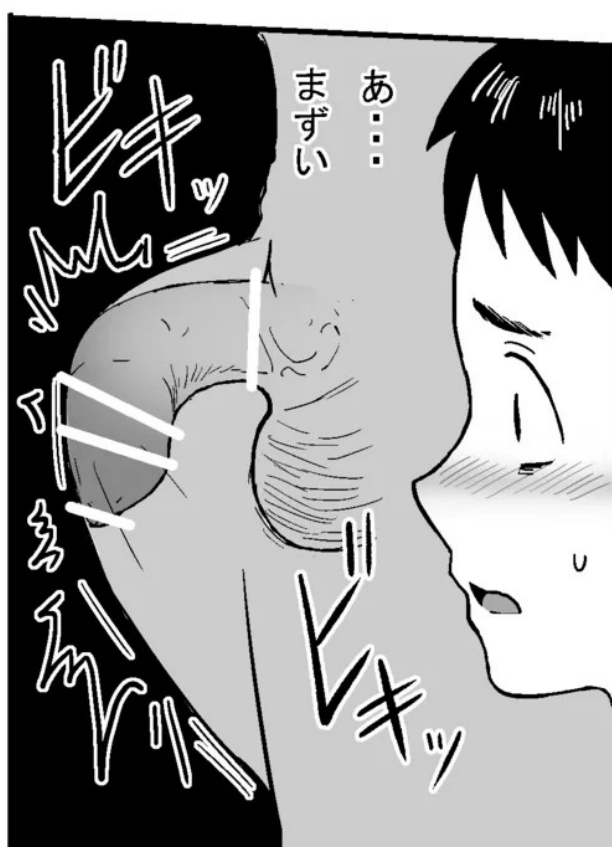
好きあって
幸せそうなのも
あれば一方的で
嫌がられて不幸
だったり

普通の漫画に
あるような
ちよつとエッチな
シーンどころじゃ
なくて

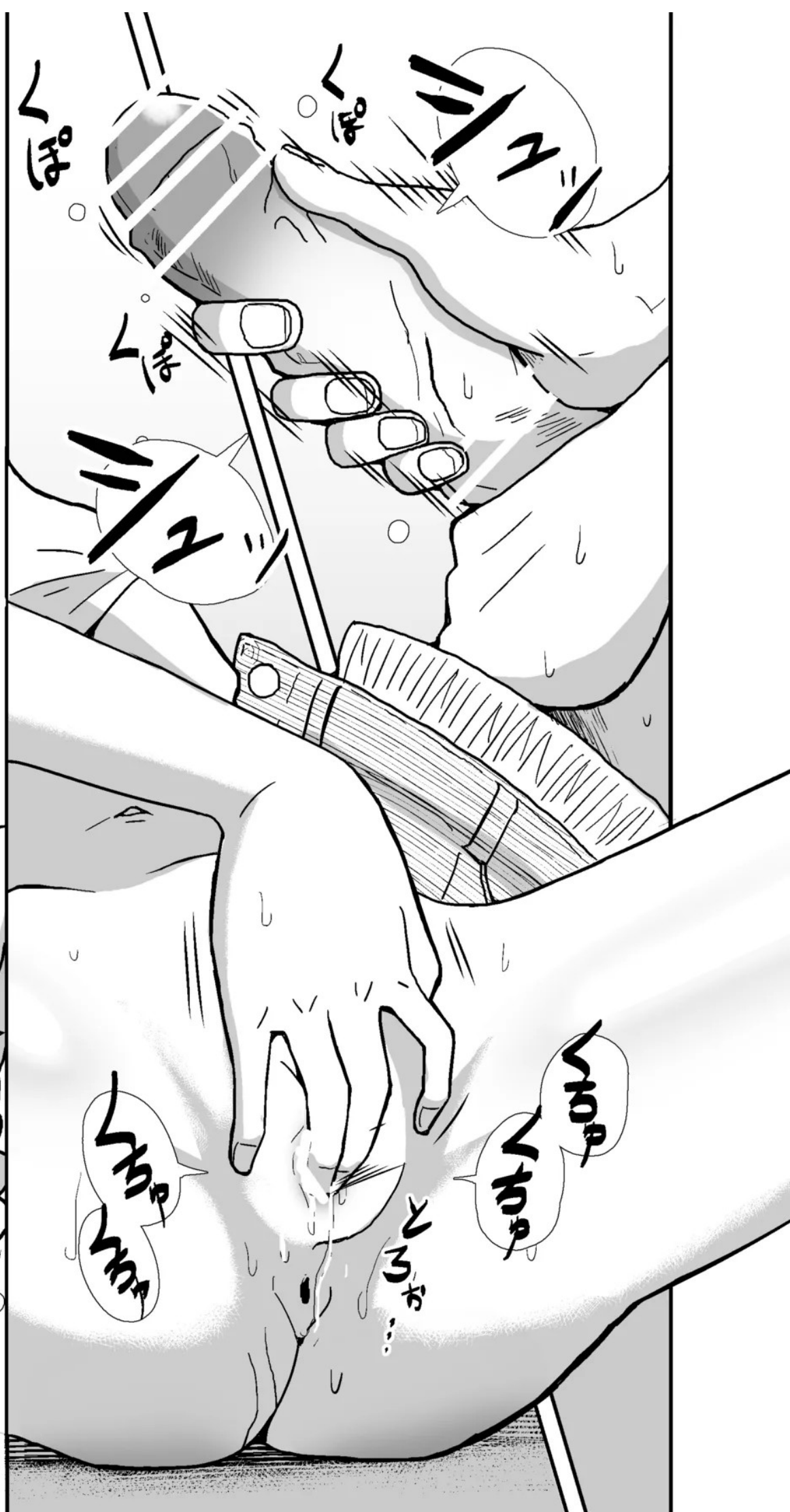
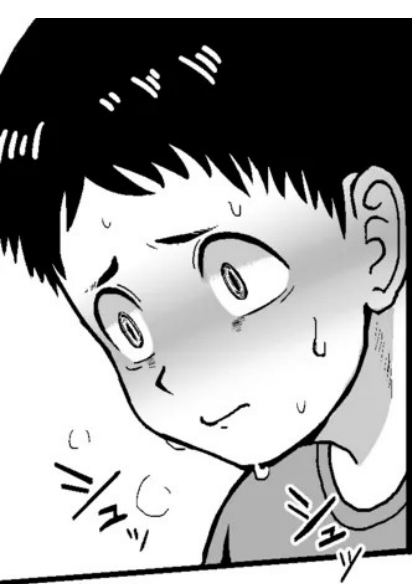
チンコを女の人の
アソコに入れて
動かして
精子出して…

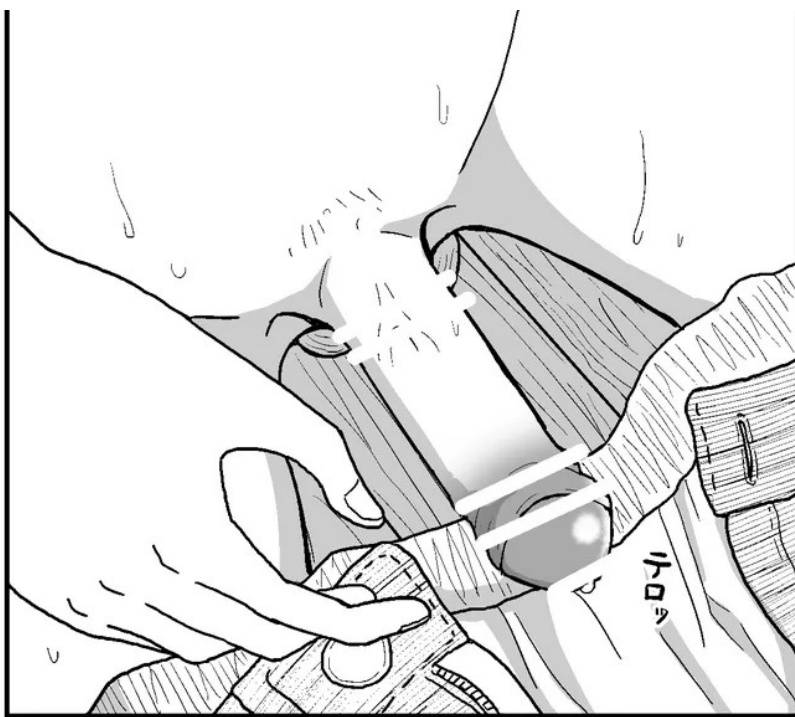
駄目だ…
僕は違う
そういうんじゃない

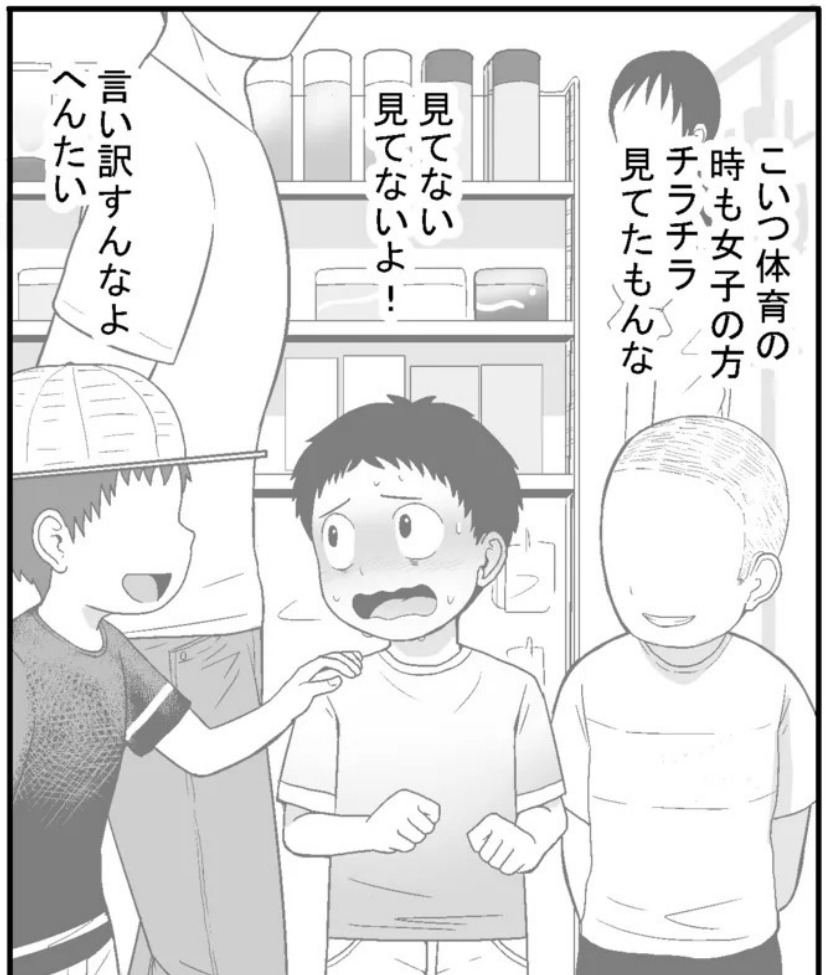
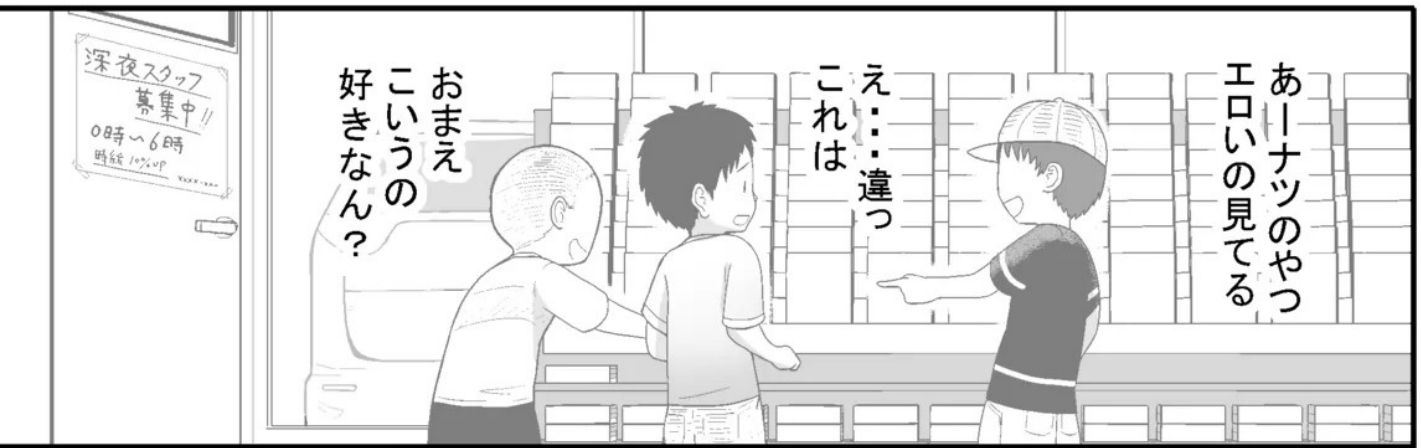


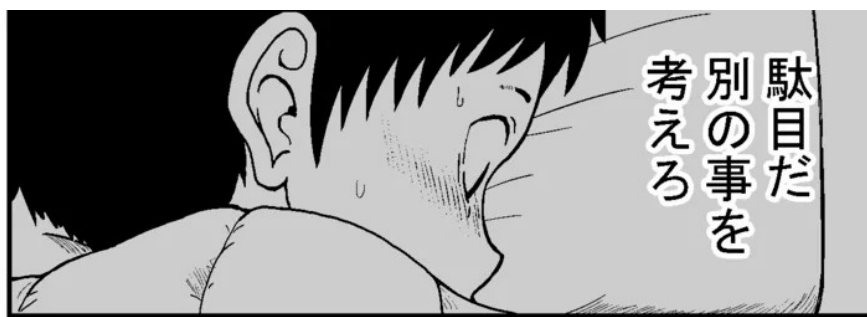












駄目だ
別の事を
考えろ



勉強の
事とが

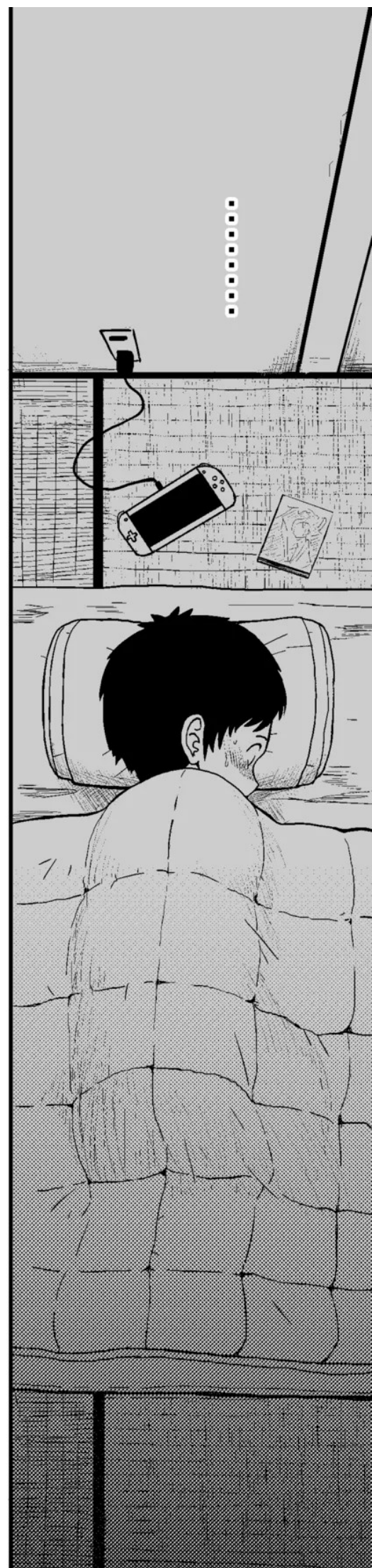
ゲームとが

チンコ
いじっちゃ
だめだ

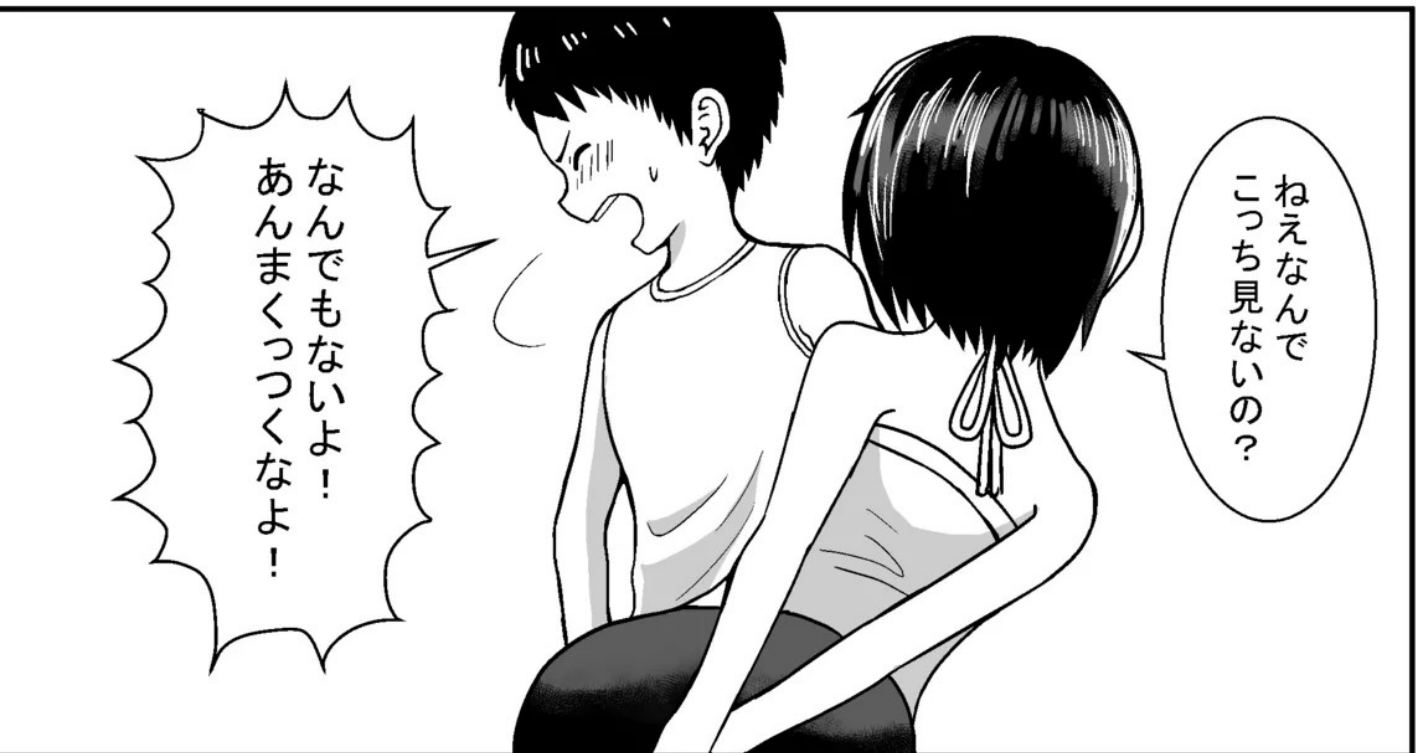
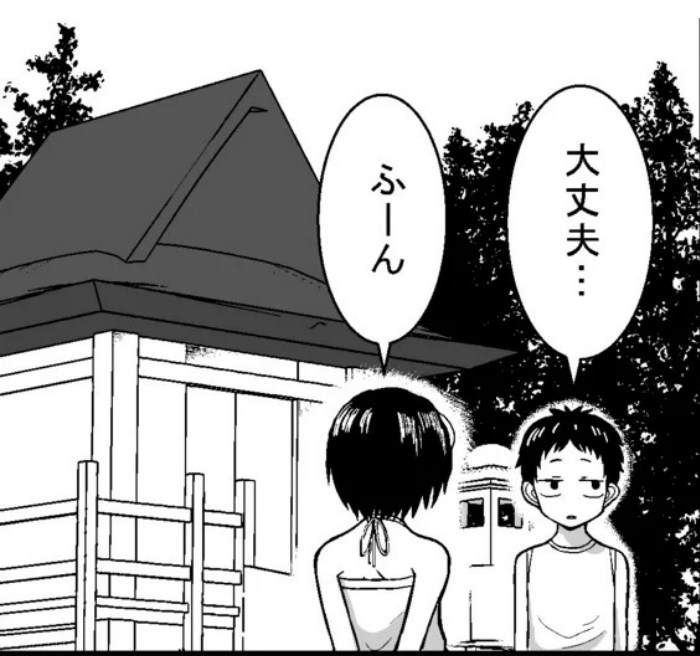
だめ

だめ

だめ



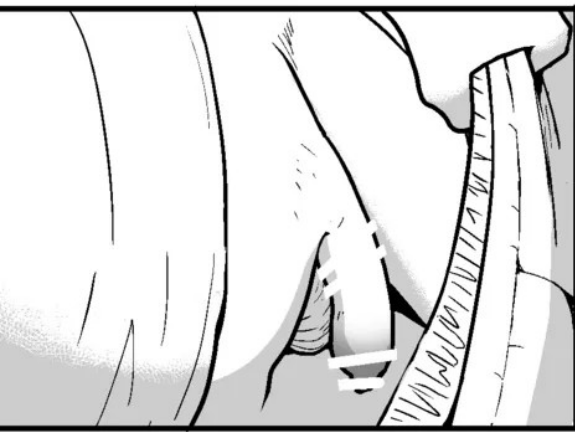
.....













夢精っていうのがあったな

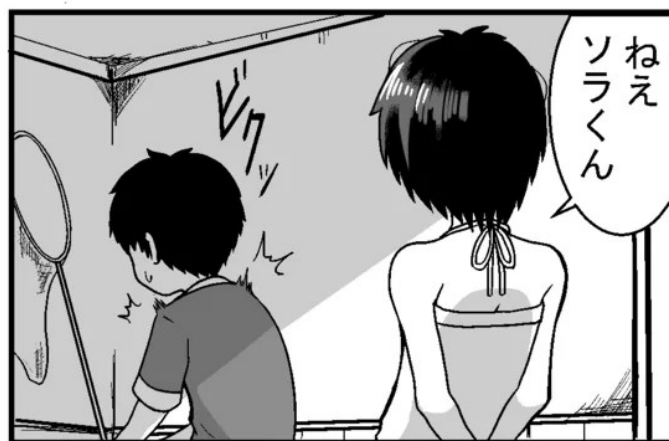
どうしたらいいんだろう

帰る日も近いし来年まで我慢なんてできるのか？

いや来年どころか一体いつまで…



ナツに対してこんな気持ちになっちゃうんだ



ねえソラくん



そもそもなんで僕は…

ナツは
友達であって

こんなやましい
気持ちで一緒に
いるんじゃないくて

いい
いい

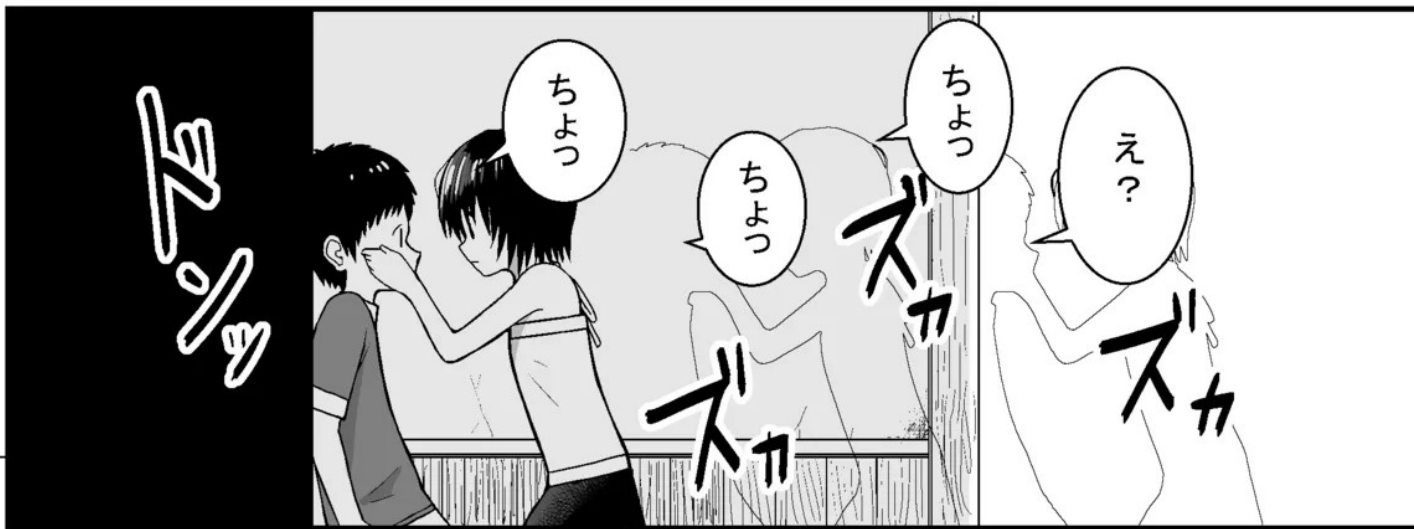
アソコが見たい

ただずっと
楽しく遊んで
たかっただけで…

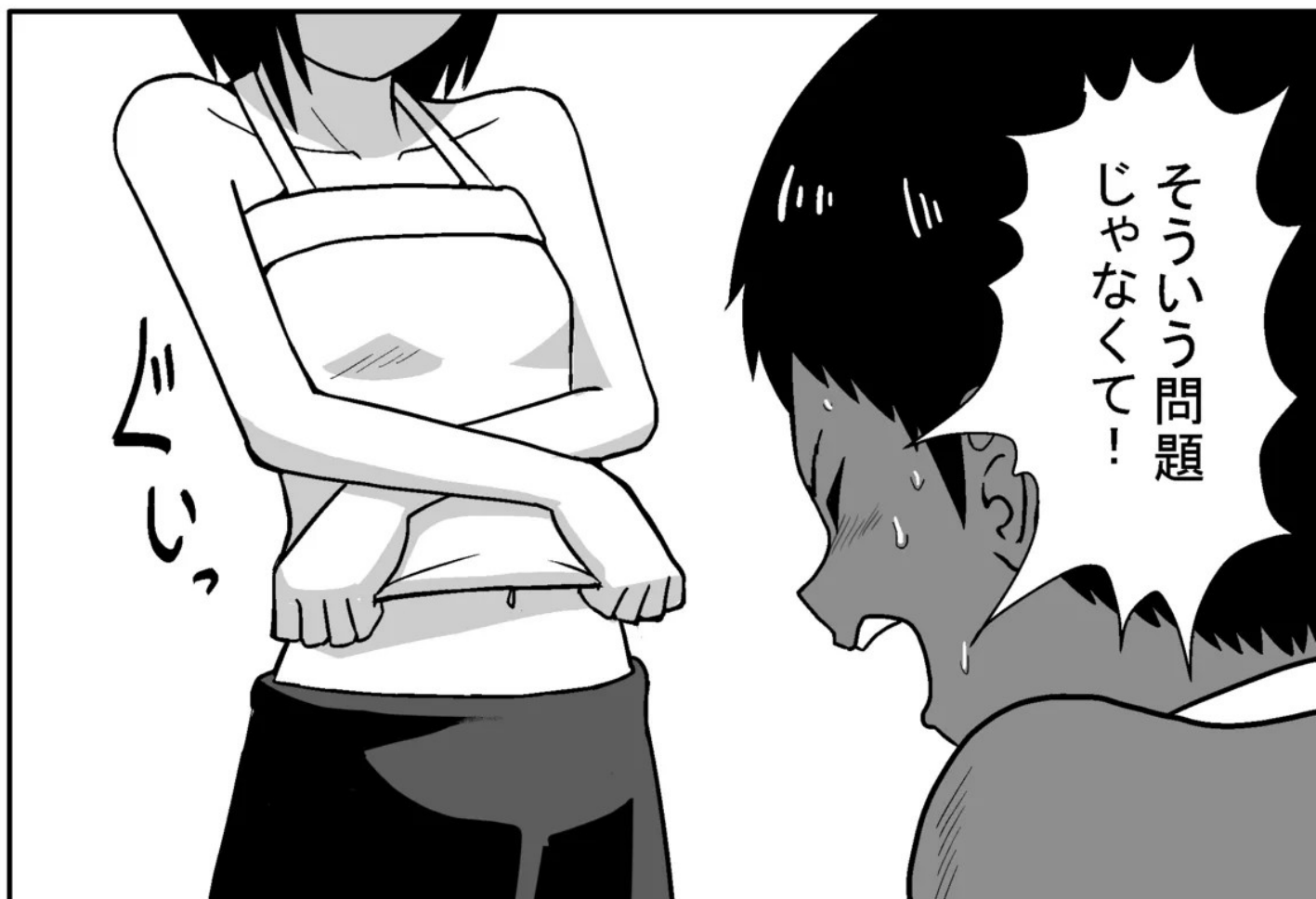
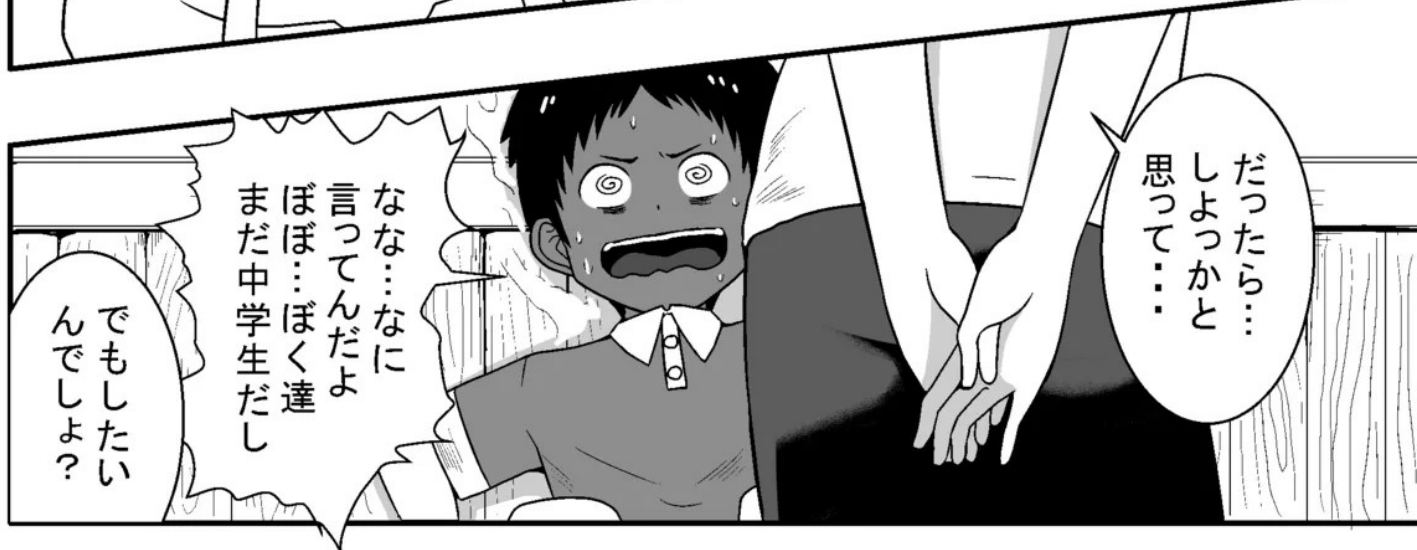
挿入
気持
精子

だめだだめだ
こんな事考えちゃ
だめだだめだだめだ
だめだだめだだめだ













なっちやう...

ふに



ナツと遊べなく...



や...やめてよ!



柔らか



これ以上...



僕は...もう...



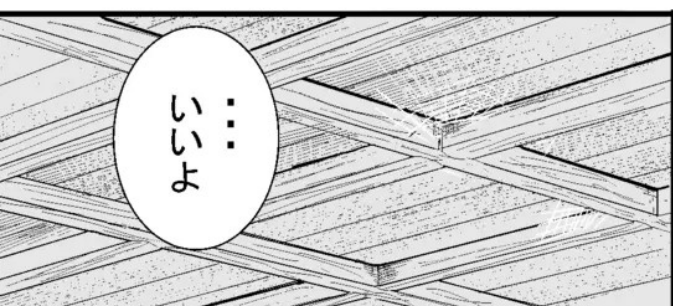
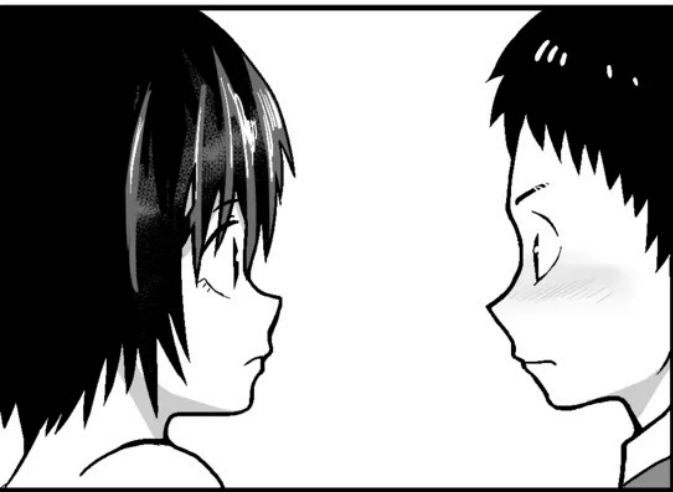
あえ...

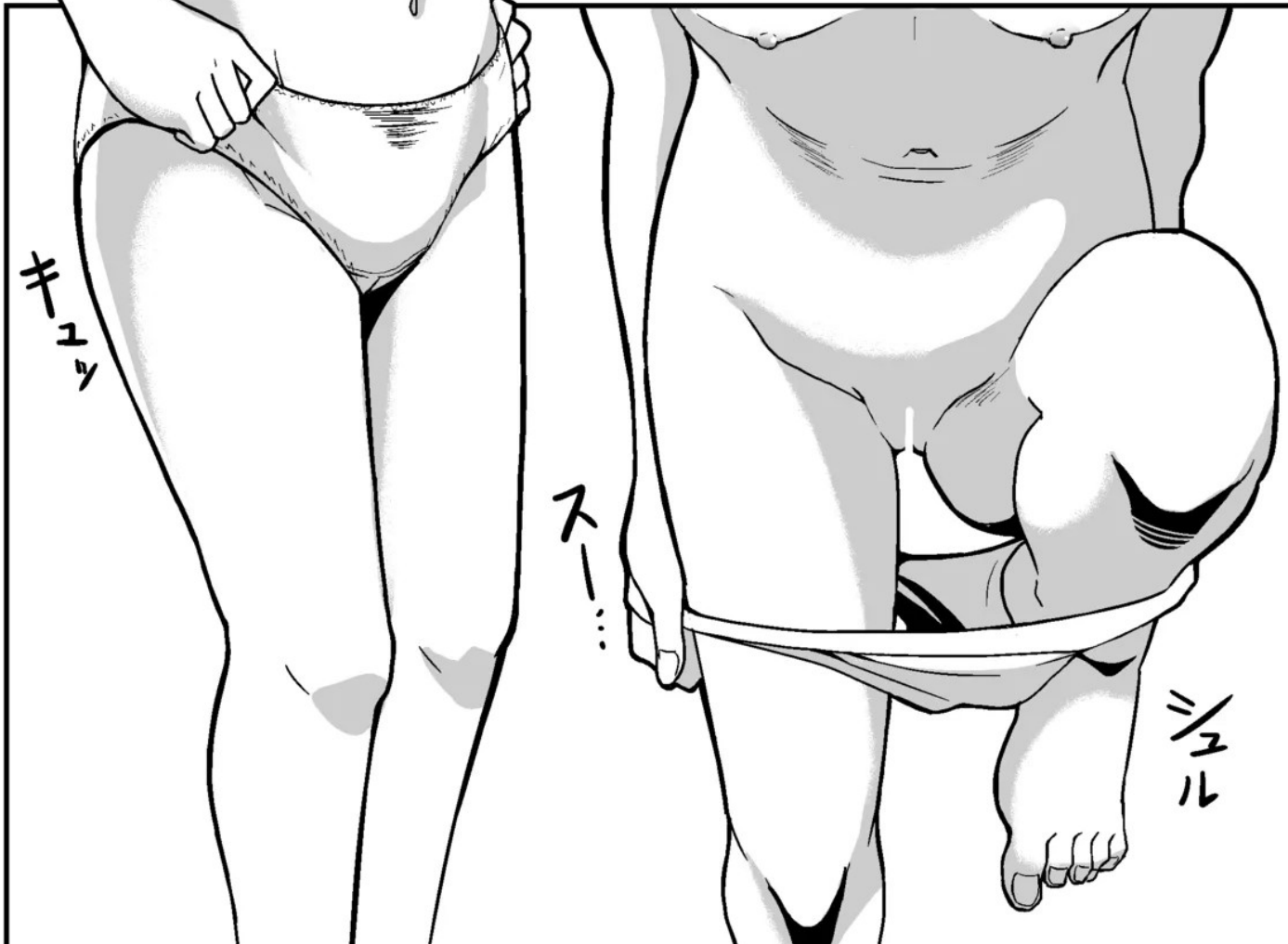
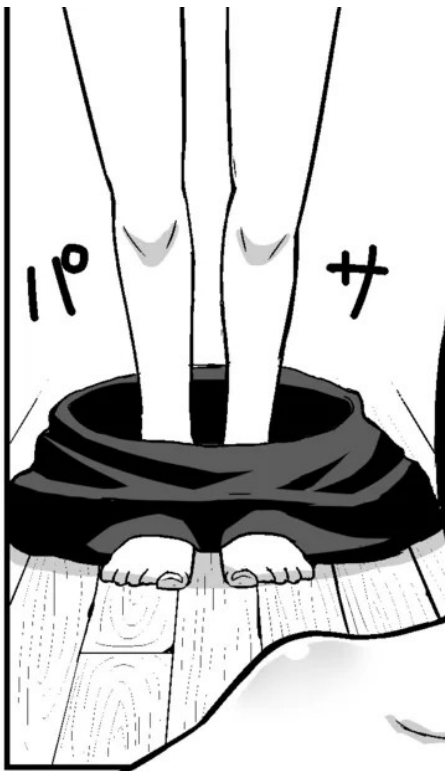


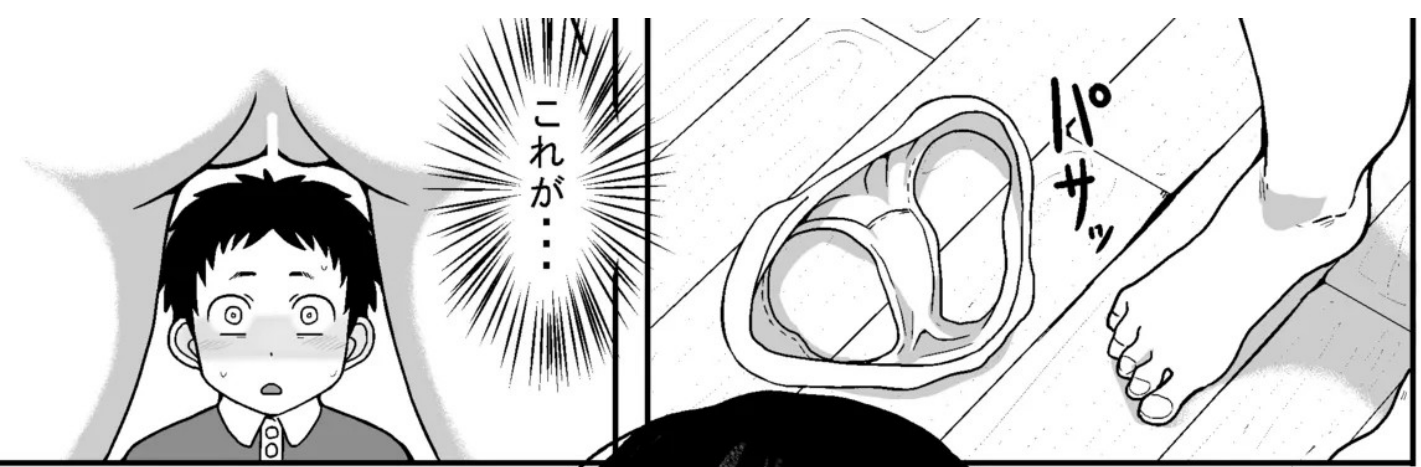
大丈夫だよ

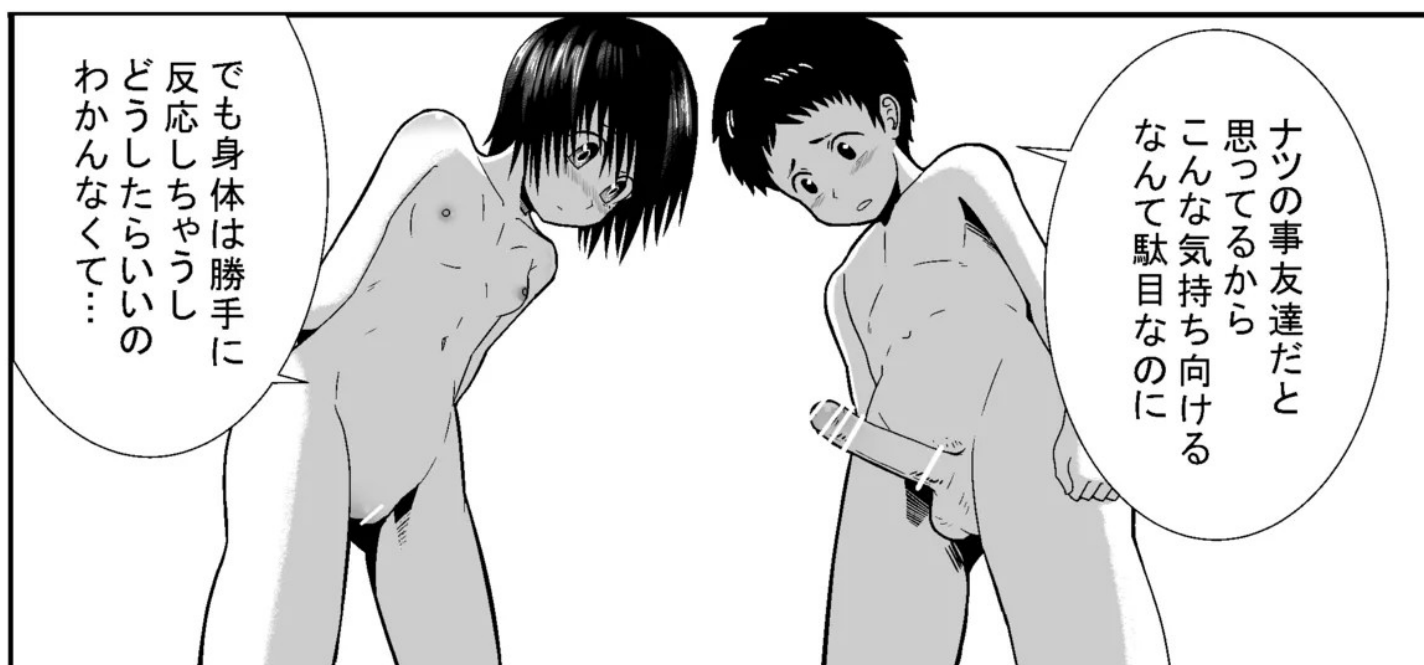
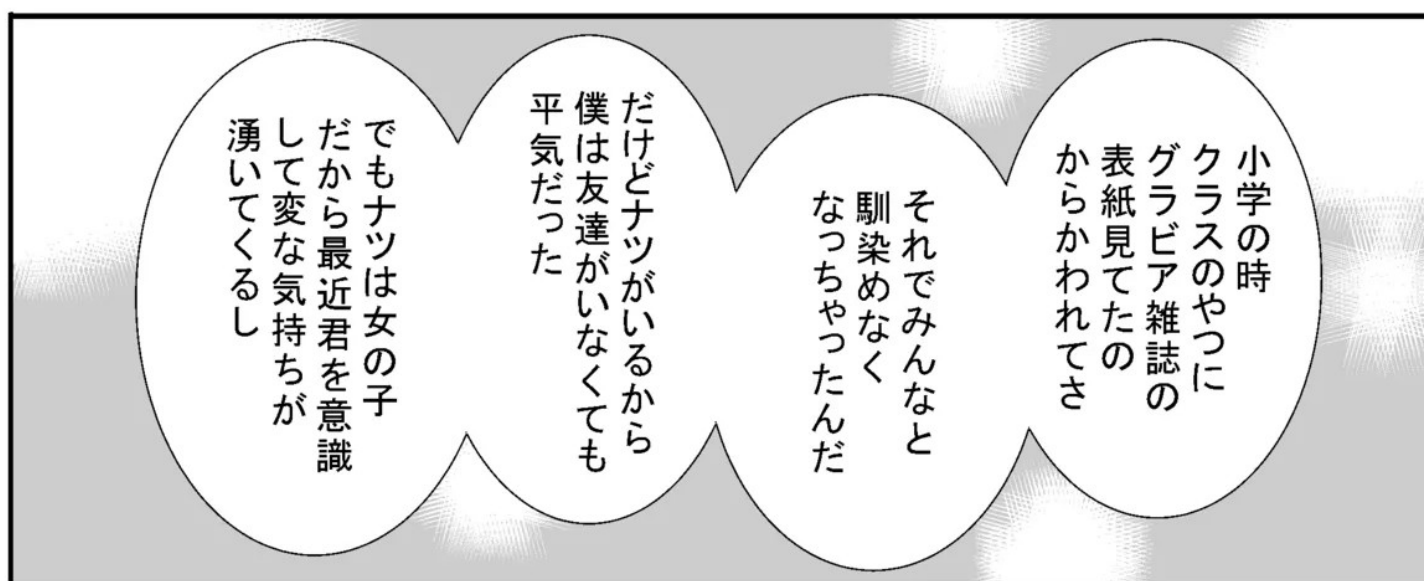
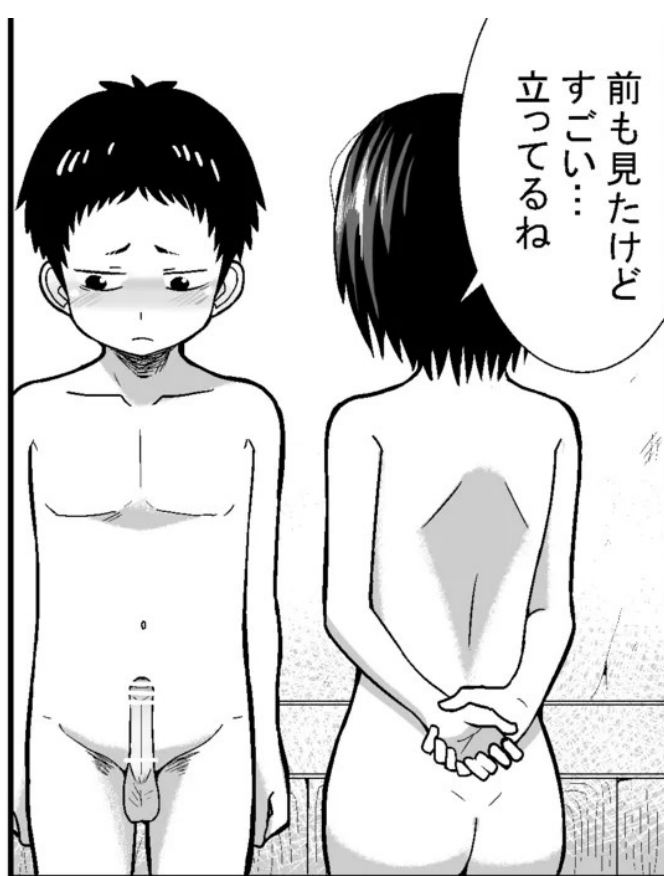


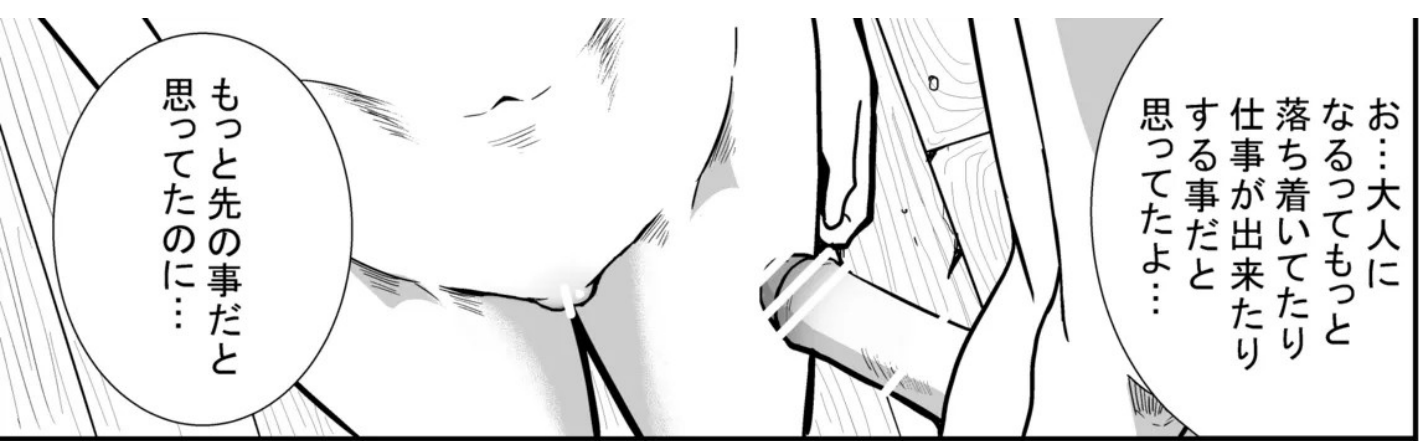












お…大人に
なるつてもっと
落ち着いてたり
仕事が出来たり
する事だと
思ってたよ…

もっと先の事だと
思ってたのに…



こんな事で
ナツに会え
なくなる
なんて
いやだよ



でも私は
ソラくんが
急にいなく
なっちゃう方が
いやだよ



しょうがないよ
男の子だもん

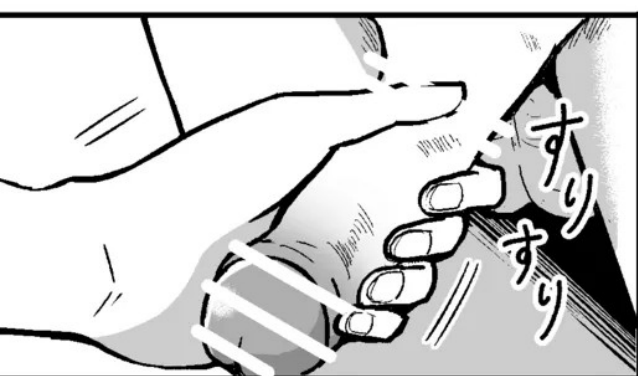
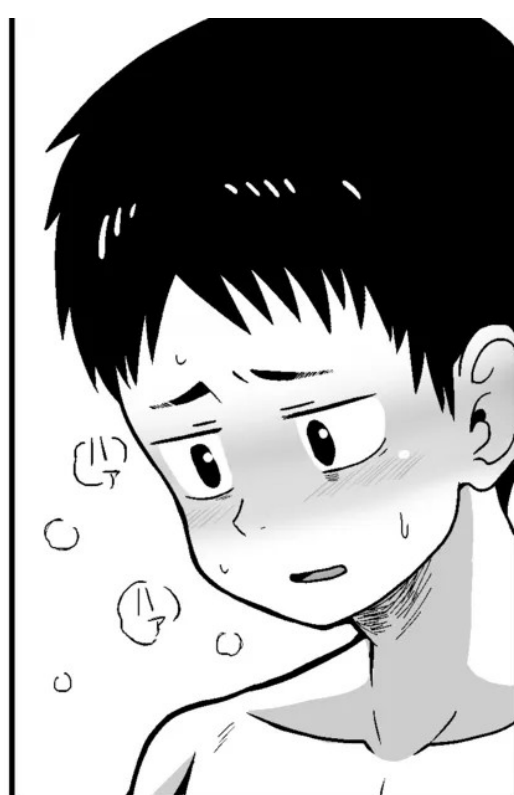
そっか…
なんとなく
感じてたけど
今まで子達も
同じ事が
あったんだね

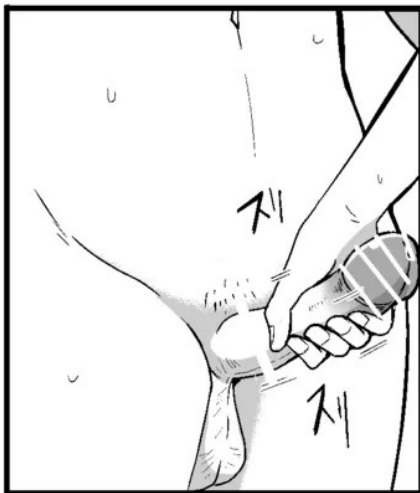
ギョッ

だったら
せめて気持ち
いいことして
お別れしよ



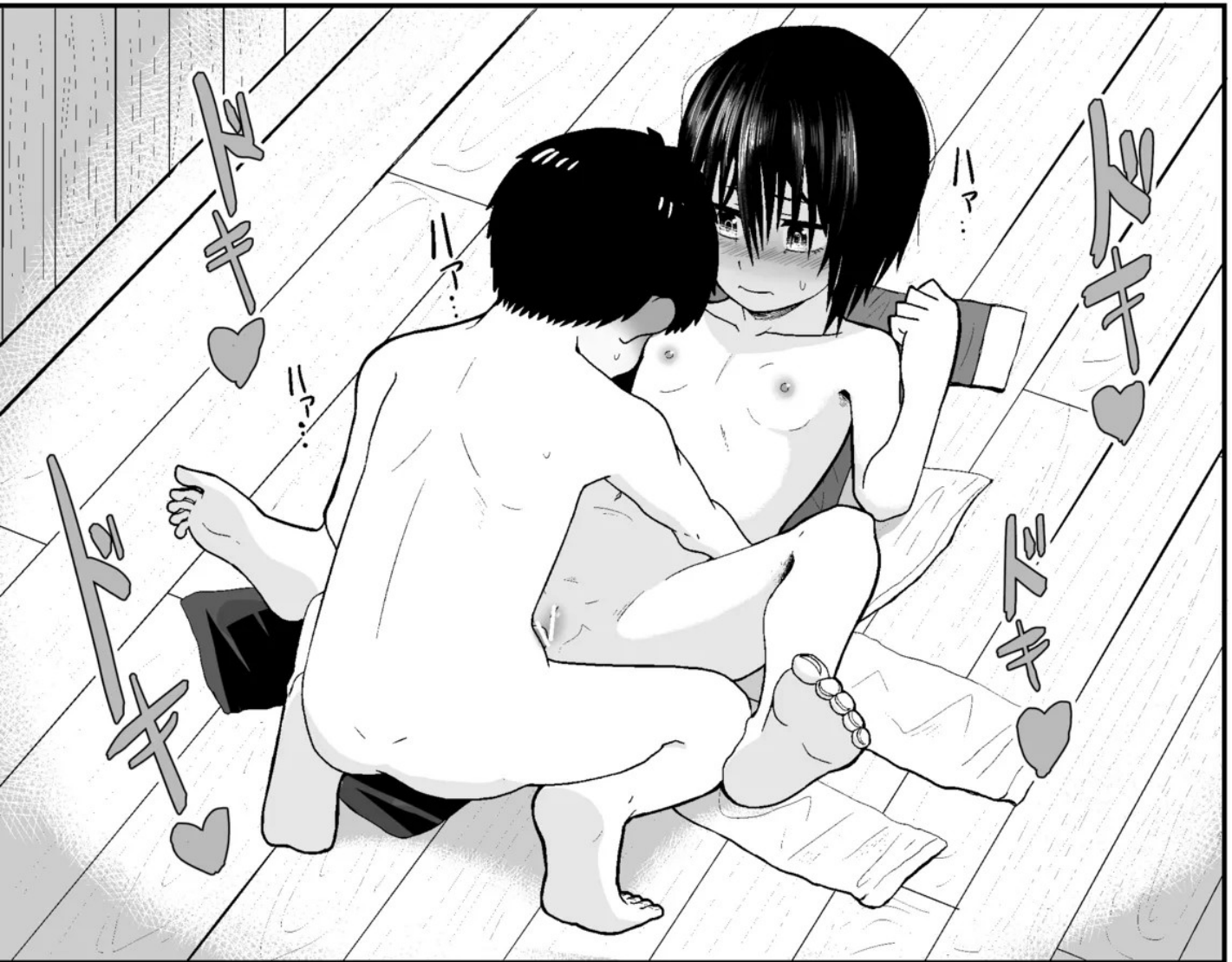
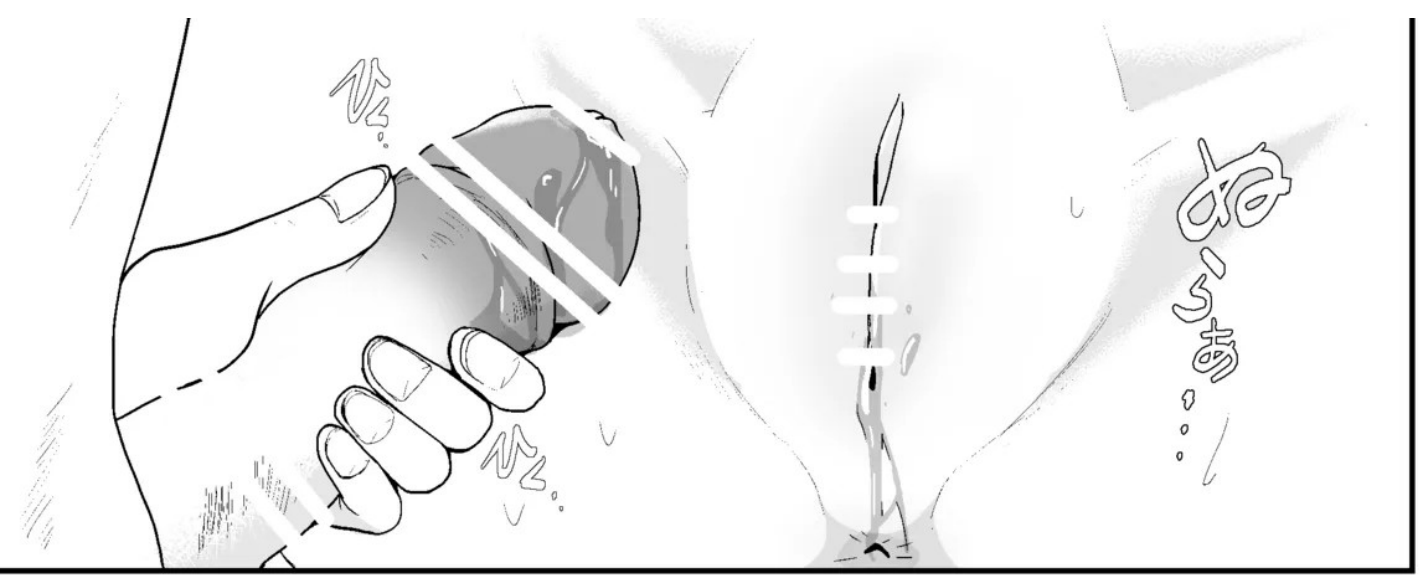
あ

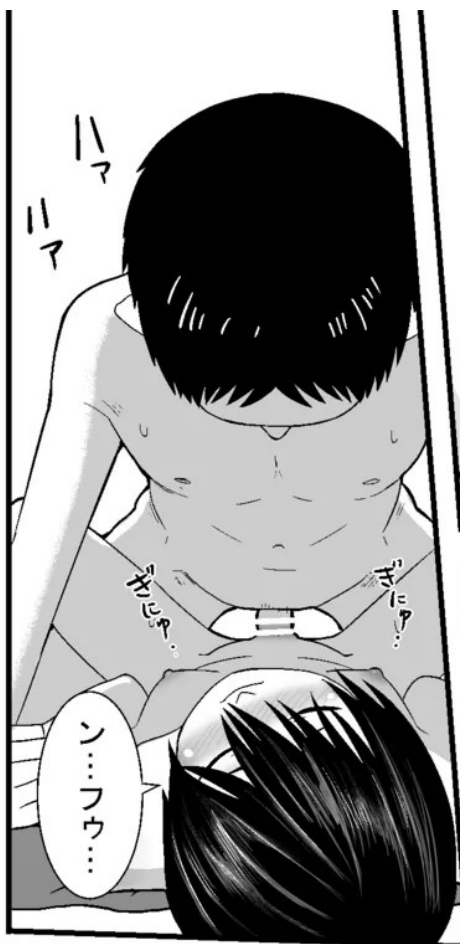


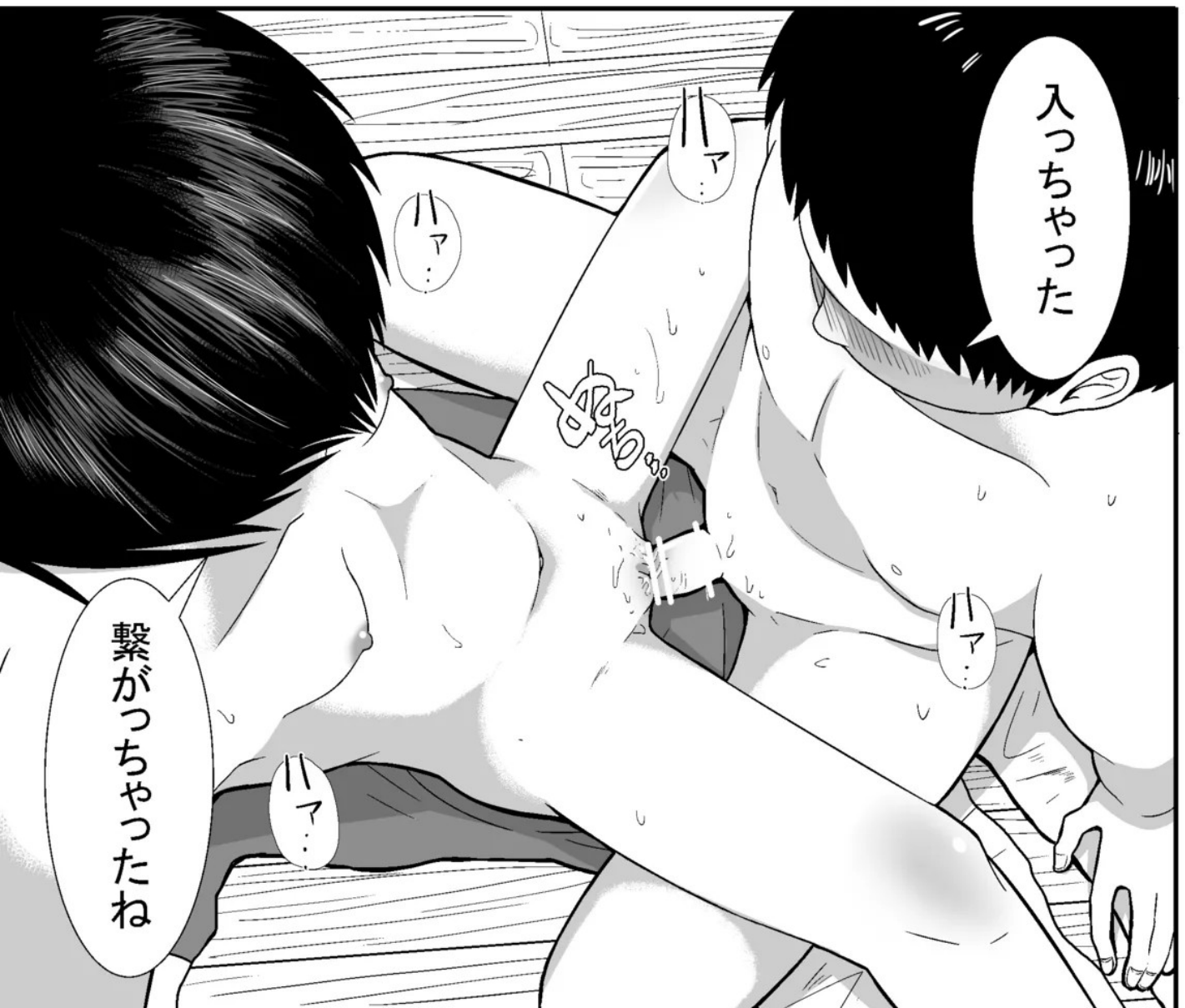




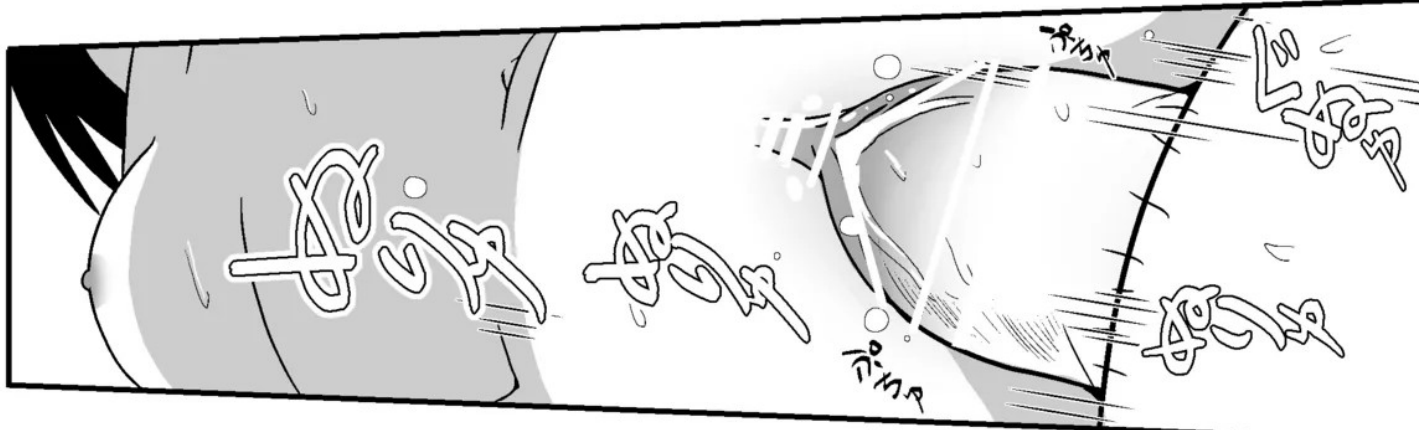


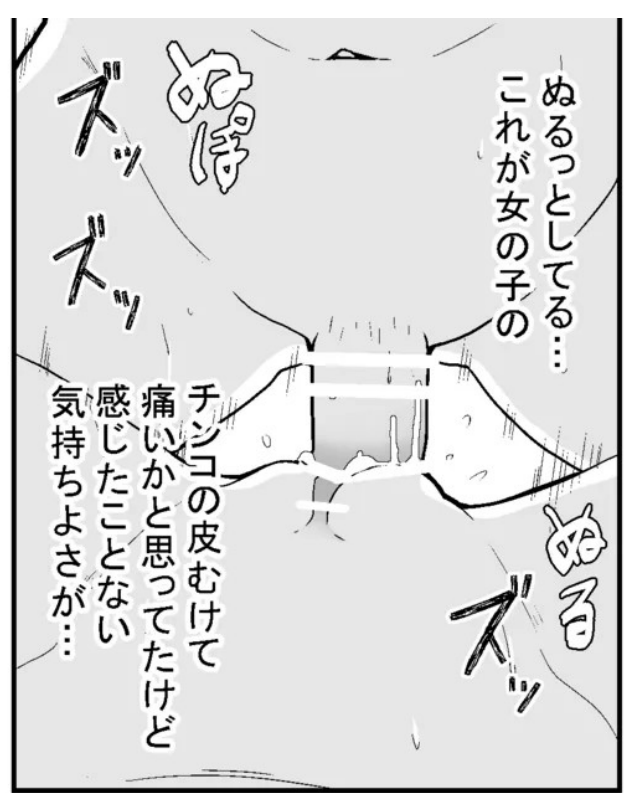














それに女の子の
身体って...



柔らかいなあ...



僕達今すごい
エロいこと
してるんだ

オナニーじゃなくて
いきなりセックス
してる



気持ちよくて
チンコ包み込んで
くる刺激しか

頭にいかない

うあ...



ちんこが
だんだん
キュッて固く
なってきた

前にオナニーしてた
時の感覚だ…
おしっこ出そうなのと
似た様で違うような

精子が根元から
駆け上がってくる
チンコの中心も
キュウッしてきた







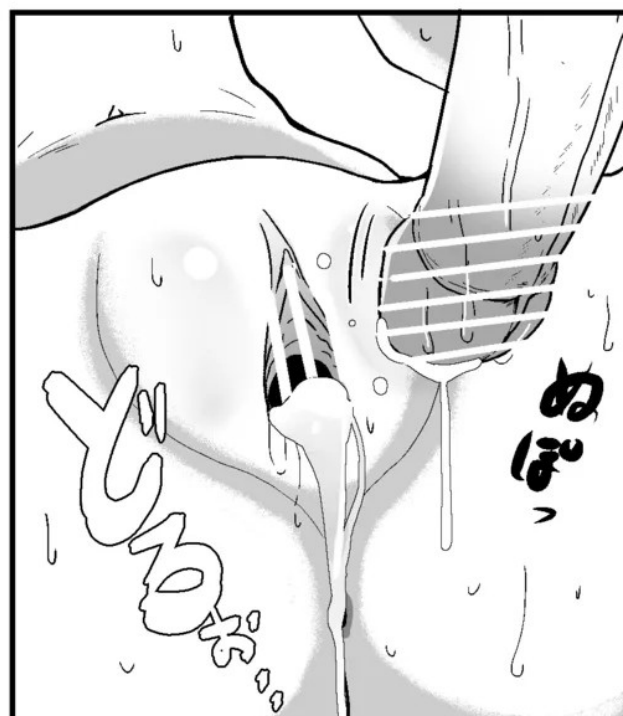
出るよ!!

ソラくんの
あったかい精子
私の中に
入ってきてるよ!

グ
ン
グ
ン
グ
ン











なにかキてる!?

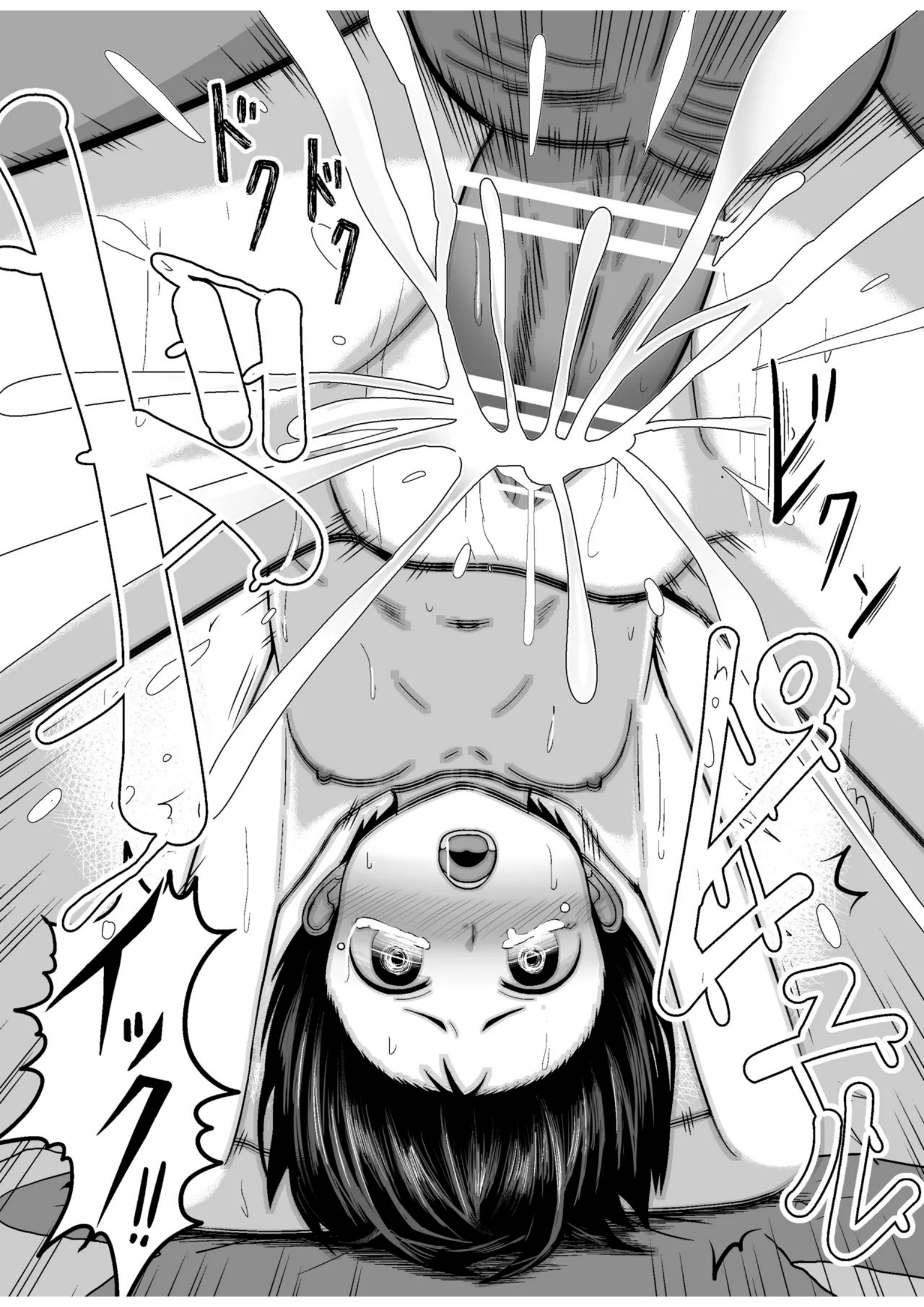
あっあっ!
キてる

せーしーる!!

僕もまた...
出そう!

イクイク

イクイク









ナツ！
そんなに
動かしたら

また…
射精ちやうよ

射精るの？
精子射精し
ちやうの？

いいよもっと
射精して！

もっと動かすの
速くするから



一緒に
気持ちよくなる
一緒に感じよ！

ああ射精る

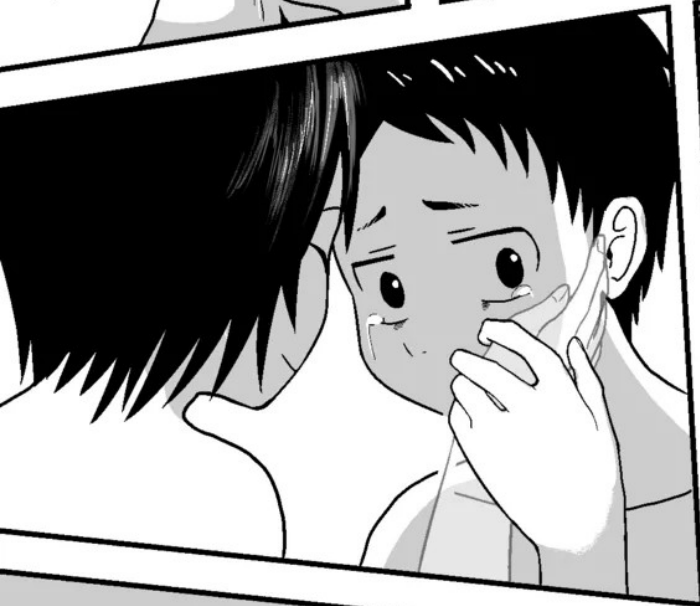
射精るう！

大人になった
ばかりの
チンチンで

最後までいっぱい
気持ちよくなるのオ!

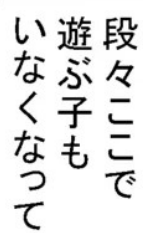
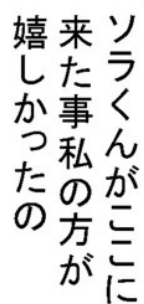






このぬくもりを
忘れないよう
ずっとナツと
触れ合ってたけど

もうダメ見たい

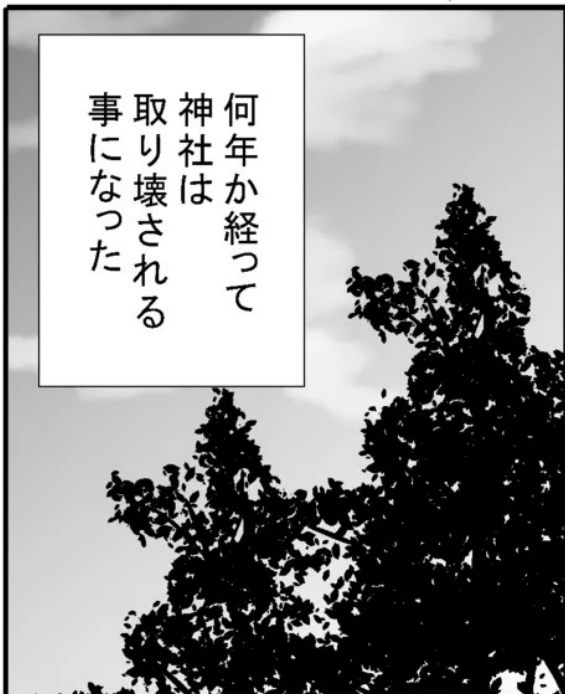
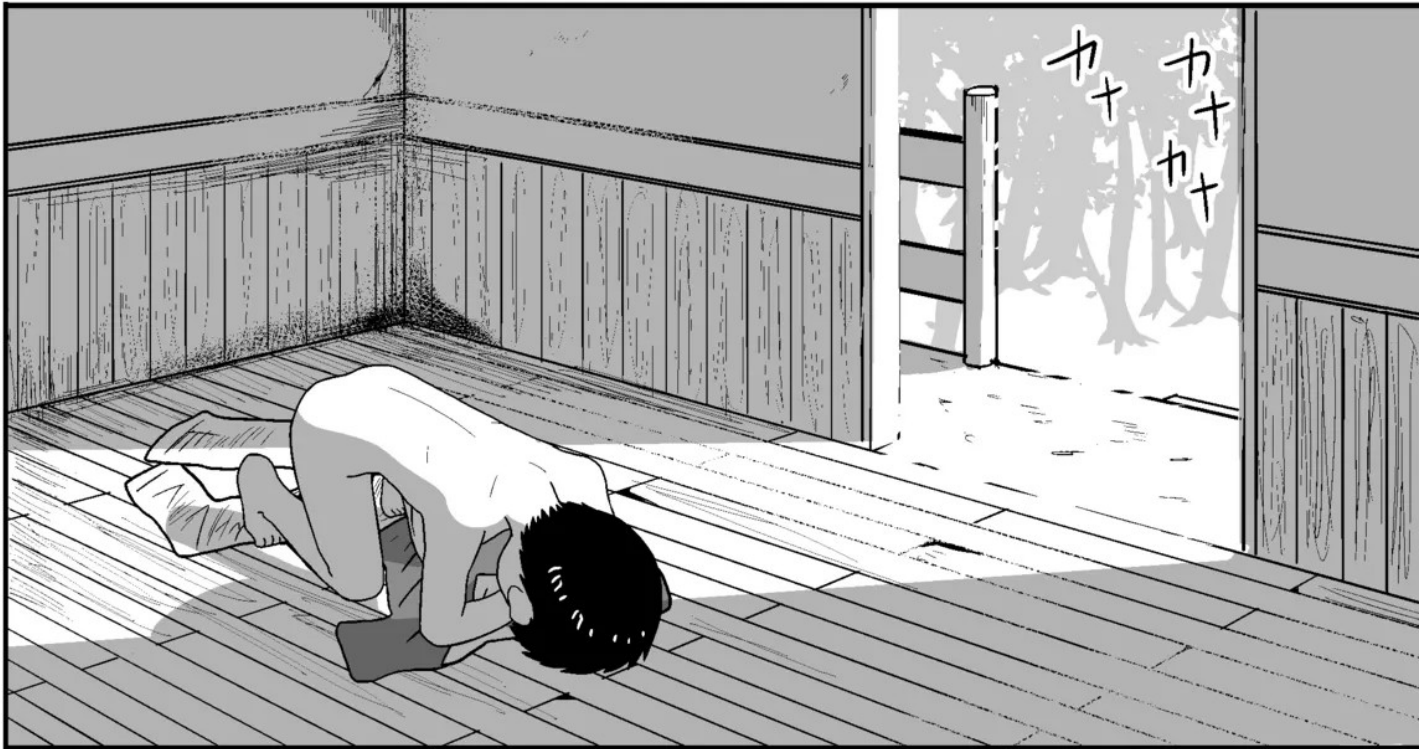


ずっと
忘れないから！

ギ
ャ
ウ
ウ
ウ

ど
ろ
ろ
ろ
ろ
ろ







はよ

ういっす



あれ以降他人に
気負いすることが
無くなった僕は

次第に周りに
馴染めて
友達もできた



少し離れた土地の
学校にひっそりと
祀られている



当時あそこで
遊んでいた
お年寄り達が
話し合って

小さな神棚を
作ることになり



あの神社は
というと

あとがき

作品を手にとっていただき誠にありがとうございます。
前作から1年以上かかってようやく完成しました。
ちゃんとプロットやらネームやらを作り込んで描くべき
だったと反省中です。次回は少しページ数を減らして
いこうと思います。陰鬱だったり純愛もいいんですけど
普通のバカっぽいエロ漫画も描いていきたいですね。